

化学療法プロトコール・レジメン登録用紙

登録プロトコール名	IFX
診療科	内科
申請者名	佐々木 洸太
適応	潰瘍性大腸炎/クローン病
登録年月日	2021.04.21

薬剤名称	投与経路	標準投与量
インフリキシマブ	div	5mg/kg

承認	承認	承認
委員長	副委員長	事務局

投与スケジュール: 初回投与後、2週、6週に投与し、以降8週間毎

投与順	Rp	経路・時間	-1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	...	36	37	38	39	40	41	42	43	...		
①	カロナール錠200mg 2錠(インフリキシマブ投与30分前)	p.o		●														●							...										●	
②	ファモチジンOD錠20mg 1錠(インフリキシマブ投与30分前)	p.o		●														●							...										●	
③	フェキソフェナジン錠60mg 1錠(インフリキシマブ投与30分前)	p.o		●														●							...										●	
④	血管確保用 生食50mL			●														●							...										●	
⑤	プライミング用 生食50mL			●														●							...										●	
⑥	インフリキシマブ(5mg/kg) + 生食250mL	div 2時間		●														●							...										●	
⑦	フラッシュ用 生食50mL			●														●							...										●	

以降8週毎投与

※ インフリキシマブ: インラインフィルター(1.2ミクロン以下)を使用すること(輸液セット[SA-PNF320NM]を使用)

【注意事項】

- ・他の注射剤、輸液等と混合しないこと(配合変化のため)
- ・溶解後3時間以内に投与を開始すること
- ・原則、2時間以上をかけて緩徐に点滴静注すること。なお、6週の投与以降、それまでの投与でinfusion reactionが認められなければ、点滴時間を短縮することができる。ただし、平均点滴速度は1時間当たり5mg/kgを超えないこと。また、点滴時間を短縮した際にinfusion reactionが認められた場合には、次回以降、点滴時間を短縮せずに投与すること。
- ・体重100kg以上の場合には、希釈後のインフリキシマブ濃度が4mg/mLを超えないよう生食の量を調整すること

開始予定日 あり 年 月 日 なし